

事 務 連 絡
平成 28 年 5 月 17 日

各 検 疫 所 御 中

健 康 局 結 核 感 染 症 課

医 薬 ・ 生 活 衛 生 局 生 活 衛 生 ・ 食 品 安 全 部
企 画 情 報 課 検 疫 所 業 務 管 理 室

ジカウイルス感染症に関する注意喚起の徹底について

ジカウイルス感染症への検疫対応については、平成 28 年 2 月 26 日付け事務連絡により、中南米に渡航される方への注意喚起の一層の徹底を図るため、ポスターの掲示等による出国者への注意喚起等の対応をお願いしているところですが、国立感染症研究所が公表しているジカウイルス感染症のリスクアセスメントの更新に伴い、今般、別添のとおり啓発資料を更新しましたので、出国者に対する注意喚起及び帰国・入国者に対し自己申告を促すよう、引き続き御対応方よろしく申し上げます。

- 別添 1 「中南米地域、タイ、フィリピン、ベトナムなどで「ジカウイルス感染症」が流行（出国用）」
- 別添 2 「中南米地域、タイ、フィリピン、ベトナムなどで「ジカウイルス感染症」が流行（入国用）」

中南米地域、タイ、フィリピン、ベトナムなどで 「ジカウイルス感染症」が流行

特に妊婦及び妊娠の可能性のある方はご注意ください

【症状】

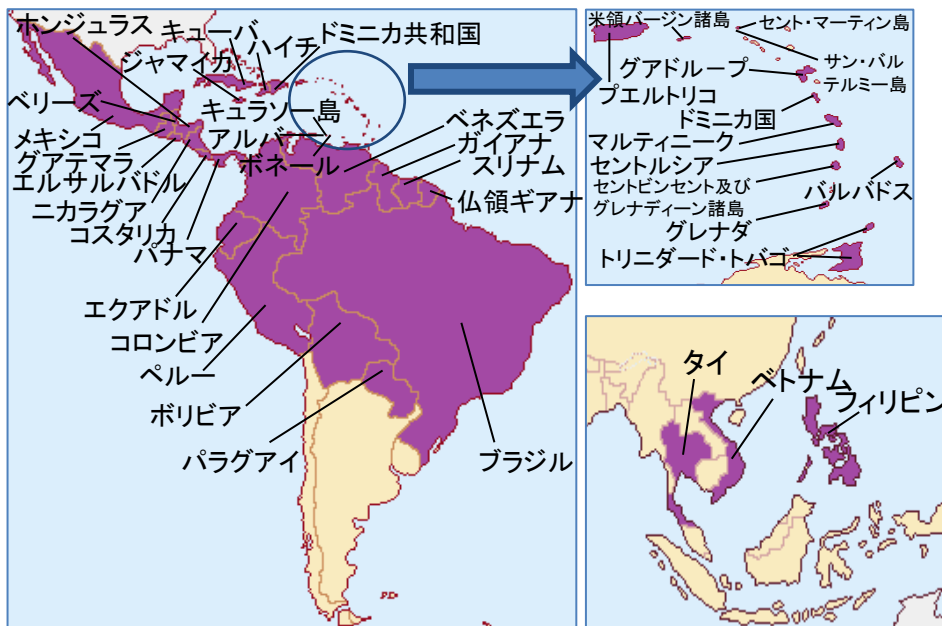
主として軽度の発熱、発疹、結膜炎、関節痛、筋肉痛、倦怠感、頭痛など

【感染経路】

ジカウイルスを持った蚊がヒトを吸血することで感染します。輸血や性行為によって感染する場合があります。感染しても全員が発症するわけではなく、症状がないか、症状が軽いため気付かないこともあります。

【流行地域】

アフリカ、中南米、アジア太平洋地域で発生がありますが、近年は中南米で流行が拡大しています。また、中南米以外(米領サモア、フィジー、ミクロネシア連邦コスラエ州、マーシャル諸島、ニューカレドニア、パプアニューギニア、サモア、トンガ、カーボベルデ、タイ、フィリピン及びベトナム)でも発生しています。



※平成28年5月12日現在 中南米及びアジアにおける流行地域

【妊婦及び妊娠の可能性のある方へ】

妊娠中にジカウイルスに感染すると、胎児に小頭症等の先天性障害を来すことがあることから、妊婦及び妊娠の可能性のある方は流行地域への渡航を控えた方が良いとされています。やむを得ず渡航をする場合は、特に蚊に刺されないように注意してください。

【流行地域に渡航される方へ】

<渡航中>

- 流行地域では、長袖、長ズボンの着用や、定期的な蚊の忌避剤(虫除けスプレー等)の使用などにより、蚊に刺されないように注意してください。
- 性行為感染のリスクを考慮し、流行地域に滞在中は、症状の有無にかかわらず、性行為の際にコンドームを使用するか性行為を控えてください。

<帰国時>

- 蚊に刺されたことだけで過分に心配する必要はありませんが、心配なことや発熱等の症状のある方は、検疫所にご相談ください。
- 症状の有無にかかわらず、帰国後少なくとも2週間程度は、忌避剤の使用など蚊に刺されないための対策を行ってください。
- 性行為感染のリスクを考慮し、流行地域から帰国した男性は、症状の有無にかかわらず、最低4週間、パートナーが妊婦の場合は妊娠期間中、性行為の際にコンドームを使用するか性行為を控えてください。
- 母体から胎児への感染のリスクを考慮し、流行地域から帰国した女性は、最低4週間は妊娠を控えてください。

検疫所ホームページ FORTH

<http://www.forth.go.jp>

FORTH

中南米地域、タイ、フィリピン、ベトナムなどで 「ジカウイルス感染症」が流行

流行地域からの帰国者で心配な方は
検疫官に申し出てください

【症状】

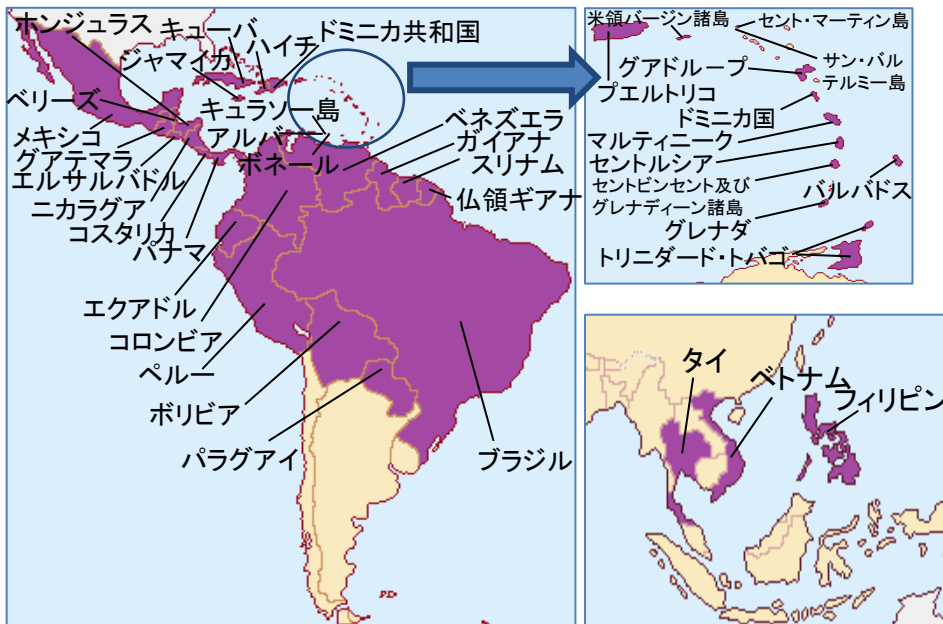
主として軽度の発熱、発疹、結膜炎、関節痛、筋肉痛、倦怠感、頭痛など

【感染経路】

ジカウイルスを持った蚊がヒトを吸血することで感染します。輸血や性行為によって感染する場合があります。感染しても全員が発症するわけではなく、症状がないか、症状が軽いため気付かないこともあります。

【流行地域】

アフリカ、中南米、アジア太平洋地域で発生がありますが、近年は中南米で流行が拡大しています。また、中南米以外(米領サモア、フィジー、ミクロネシア連邦コスラエ州、マーシャル諸島、ニューカレドニア、パプアニューギニア、サモア、トンガ、カーボベルデ、タイ、フィリピン及びベトナム)でも発生しています。



※平成28年5月12日現在 中南米及びアジアにおける流行地域

【流行地域に渡航された方へ】

- 蚊に刺されたことだけで過分に心配する必要はありませんが、心配なことや発熱等の症状のある方は、検疫所にご相談ください。
- 症状の有無にかかわらず、帰国後少なくとも2週間程度は、忌避剤の使用など蚊に刺されないための対策を行ってください。
- 性行為感染のリスクを考慮し、流行地域から帰国した男性は、症状の有無にかかわらず、最低4週間、パートナーが妊婦の場合は妊娠期間中、性行為の際にコンドームを使用するか性行為を控えてください。
- 母体から胎児への感染のリスクを考慮し、流行地域から帰国した女性は、最低4週間は妊娠を控えてください。
- 心配なことや発熱等の症状が出た方は、最寄りの保健所等にご相談ください。

検疫所ホームページ FORTH
<http://www.forth.go.jp>

FORTH